

認定 URA の申請に必要な書類とその書き方

(2024 年度認定 URA 審査実施要項 (2024 年 9 月 30 日改訂版)
(以下, 簡単に「審査実施要項」とします。) も参照してください。)

- このページ, チェックリスト, 書き方の部分は提出時に削除し, 二つの様式のみ提出してください。
- 様式において緑字で示されている記入指示の部分も提出時に削除してください。
- よくある質問 (Q&A <https://www.crams.or.jp/faq/>) も参照してください。

業務経験説明書・自己アピール書 提出前チェックリスト

書類提出前に必ず各項目について確認くださるようお願いいたします。
チェックリストを提出する必要はありません。

【すべての書類】

<input type="checkbox"/>	申請時点で最新の認定審査実施要項を参照し、かつ最新の様式を利用している。
<input type="checkbox"/>	よくある質問 (Q&A https://www.crams.or.jp/faq/) を参照して、記述内容に適切に反映している。
<input type="checkbox"/>	様式は改変していない (様式の枠は変更不可。縦方向に枠 (行) の追加は可)。
<input type="checkbox"/>	文字サイズは、基本的に 10.5 ポイントを使用している。
<input type="checkbox"/>	和暦ではなく、西暦で統一している。
<input type="checkbox"/>	指示通りのページ数で内容をまとめている。
<input type="checkbox"/>	緑字で書かれた説明や指示は削除している。その他不要な部分を削除している。
<input type="checkbox"/>	誤字・脱字や必要事項の記入漏れの有無について、最終確認している。

【業務経験説明書】

<input type="checkbox"/>	「学位・資格等」の欄には、 URA 業務に関係するもの を記入している。
<input type="checkbox"/>	「学位・資格等」の欄は、 現在から過去の順 に記入している。
<input type="checkbox"/>	「略歴」の欄には、 直近の過去 5 年間 が含まれている。
<input type="checkbox"/>	「略歴」の欄は、 現在から過去の順 に記入している。
<input type="checkbox"/>	「URA 業務経験 (具体的内容と役割)」の欄には、申請者自身が経験した URA 業務の内容とその業務における申請者の役割等を 具体的に 記入している。
<input type="checkbox"/>	「URA 業務経験 (具体的内容と役割)」の欄には、所属部署の成果ではなく、申請者自身の成果として、どのような寄与をしたか及び扱った件数・金額等を 具体的に 記入している。
<input type="checkbox"/>	「URA 業務経験 (具体的内容と役割)」の欄において、我が国の大学等における URA 業務の経験年数が、認定審査の申請期間の 締切日時点 の直近 5 年間の中で合計 3 年以上であることが分かる記述になっている。
<input type="checkbox"/>	「URA 業務経験 (具体的内容と役割)」の欄で、URA 業務の経験年数に我が国の大学等以外における経験年数の 1/2 を算入した場合には、その経験が我が国の大学等における URA 業務に資する可能性があることが説明されている。
<input type="checkbox"/>	所属長 (以上、あるいはそれに準ずる関係者) の署名 (自筆) を貰い、署名日 (自筆) が記入されている。
<input type="checkbox"/>	申請者本人が署名 (自筆) している。
<input type="checkbox"/>	スキャナで取り込んだ業務経験説明書において、署名は視認性を確保している。

【自己アピール書】

<input type="checkbox"/>	次の 2 つについて、項目立てをした上で説明している。 ● 特にアピールしたい URA 業務 (複数可) の経験 ● その経験において、申請者の自立的な問題解決能力を証明する自身の役割・貢献
<input type="checkbox"/>	上記の説明においては、申請者の役割や貢献の内容・業務に対する責任や扱った件数・金額等について 具体的に 記入している。

認定 URA の認定申請に係る業務経験説明書の書き方と様式 1

1. 業務経験説明書は、この書き方の説明の後に付いている様式 1 を用いて、申請者自身が 4 ページ以内で記入してください。
2. 業務経験説明書は、審査において、申請者の URA 業務の経験が直近 5 年間の中で合計 3 年以上あること（判定項目）の確認と、その内容と量が基準（審査実施要項参照）を満たしているか（評価項目 1 及び 2）の判断に主に用いられます。それらが分かるように、業務の内容と申請者の役割等を具体的に記入してください。なお、URA 業務の評価対象には、研究活動のマネジメントは含まれますが、URA の組織である室や部門等の組織マネジメントは含まれません。よくある質問（Q&A <https://www.crams.or.jp/faq/>）の該当項目を参照してください。
3. 学位・資格等の欄の資格としては、URA 業務に関連するものを記入してください。
4. 略歴については必ず直近の過去 5 年間を含んでください。その他の期間については、URA 業務に関係するものを主に記入してください。
5. 「URA 業務経験（具体的内容と役割）」の欄には直近 5 年間の中で合計 3 年以上の期間に携わった URA 業務の内容と役割を記入してください。なお、申請条件の附則（審査実施要項参照）により、我が国の大学等以外における経験年数を算入した場合には、3 年以上を、その算入期間を含む年数に置き換えることとします。
6. 書き方に関する注意
 - 様式の枠は変更しないでください。ただし、文字数が多くなって、縦方向に広がることは構いません。また、「学位・資格等」の欄で枠の数が不足する場合、縦方向に枠（行）を追加することは構いません。
 - 様式の申請者が記入する部分は、文字サイズ 10.5 ポイントで作成してください。それ以外のサイズは使用しないでください。
 - 様式の申請者が記入する部分では、フォントは游明朝、文字の色は黒にしてください。ただし、強調したいところを太字にしたり、色を変えたり、別のフォントにすることは構いません。
 - 各様式の緑字で書かれた説明や指示は、提出前に削除してください。提出の際は、この書き方を含む不要の部分を削って、業務経験説明書（様式 1）ページだけにしてください。

7. 署名について

業務経験説明書の記載事項が事実であることの確認として所属長（以上、あるいはそれに準ずる関係者）の署名を求めています。直近 5 年間の中での合計 3 年以上の URA 業務経験を示すために必要があれば、過去の、あるいは過去に所属した部署あるいは機関の当時の所属長（以上、あるいはそれに準ずる関係者）の署名も求めています。また、業務経験説明書と自己アピール書の記載事項が事実であることの確認として、業務経験説明書に申請者本人の署名を求めています。

なお、署名及び署名日は自筆以外の方法（例：電子署名、画像の貼り付け）は認めません。自筆による署名がされた業務経験説明書をスキャン（視認性を確保する観点から、解像度は 400dpi、白黒を推奨）し、pdf 形式で自己アピール書と共に提出してください。複数の署名が求められていますので、必要であれば、署名、スキャン、プリントアウト、署名、スキャンを繰り返してください。申請書類の提出方法については、研修・審査ポータル上の指示を確認してください。

業務経験説明書（様式 1）

（申請者は、4 ページ以内にまとめて記入してください（署名も含む）。提出時には、緑字の部分は削除してください。）

申請日（西暦） 年 月 日

1. 申請者氏名	フリガナ		
2. 所属機関・ 部署・職名			
3. 学位・ 資格等 (現在から 過去の順)	事 項	認定・登録機関等	年月（西暦）

4. 略歴（直近 5 年を必ず含み、現在から過去の順に記入してください。直近 5 年より前の期間については、URA 業務に関係するものを主に記入してください。）
5. 機関（部局に属する申請者の場合は、部局）の常勤研究者数（直近 5 年以内に移動している場合は、全ての機関について現在から過去の順に記入してください。）
例：○○大学 名 あるいは ○○大学☆☆研究科 名 等
6. 申請者が所属する部署の規模（URA 業務に従事している人数とそれ以外の人数）（直近 5 年以内に異動している場合は、全ての部署について現在から過去の順に記入してください。）
例：○○機構 名 あるいは ☆☆研究科 名 等
7. 所属部署の主たる業務と申請者自身の立ち位置（直近 5 年以内に異動している場合は、全ての部署について現在から過去の順に記入してください。）
8. 直近 5 年間の中で合計 3 年以上の URA 業務経験（具体的内容と役割）。なお、申請条件の附則（審査実施要項参照）により、我が国の大学等以外における経験年数を算入した場合には、3 年以上を、その算入期間を含む年数に置き換えることとします。
- (1) 機関・企業名等と部署名、職名（○年○月○日—○年○月○日）
業務経験の内容（定量的に示すことができるものについてはできるだけ数字を示し、現在から過去の順に記入してください）
例：○○大学○○機構, URA（2020 年 4 月 1 日～現在）
内容 1) 時期を明記して記入してください。
役割)
- 内容 2) 時期を明記して記入してください。
役割)

部署の異動がなかった場合は、1つの部署名の下に、内容ごとに項を立て、内容と役割を記入してください。

(2) 機関・企業名等と部署名，職名（○年○月○日—○年○月○日）

業務経験の内容（(1)と同様に）

例：○○大学○○センター，産学連携職員（2017年4月1日～2020年3月31日）

内容1) 時期を明記して記入してください。

役割)

内容2) 時期を明記して記入してください。

役割)

機関の移動や部署の異動がなかった場合、この項は削除してください。

(3) 以下，同様。必要なだけ追加してください。

9. 所属長（以上，あるいはそれに準ずる関係者）の署名

前記の（1）の記載が事実であることを認めます。

機関・所属・役職（申請者との職務上の関係が現在はない場合は，関係があった当時）

署名（自筆）※署名及び署名日は自筆以外の方法（例：電子署名，画像の貼り付け）は認めません。

署名日 年 月 日（自筆）

※外国での経験年数を算入する場合は，必要な部分に英文を付した上で，該当する所属長等の署名を得ることとします。その場合は本様式が4ページを越しても構いません。

なお，「直近5年間の中で3年以上のURA業務の経験」を（2）以降で示す場合，（1）についての記載は不要です。

前記の（2）の記載が事実であることを認めます。

機関・所属・役職（申請者と関係があった当時）

署名（自筆）※署名及び署名日は自筆以外の方法（例：電子署名，画像の貼り付け）は認めません。

署名日 年 月 日（自筆）

（1）だけで「直近5年間の中で3年以上のURA業務の経験」を示すことができる場合，この部分は削除してください。

※「外国での経験」について，（1）と同様です。

(3)以降についても同様です。

10. 上記の4～8に基づき、判定項目及び評価項目1及び2が合格ラインに達していると申請者が考える根拠を書いてください。

- 判定項目：我が国の大学等において、URA 業務の経験が直近5年間の中で合計3年以上あると認められるか。(注)

(注) 申請条件の附則(審査実施要項参照)に基づき我が国の大学等以外の経験年数も含めて計算する場合は、年数計算が明確になるように記述してください。

- 評価項目1：URAとしての業務を主体的に行っているか。「主体的」のレベル感(業務内容ではありません。)は、スキルカードの中級を参照してください。記載する内容は中級より上のレベルでも構いません。
- 評価項目2：URAとしての業務の量は妥当か。(スキルカードの中級(あるいはそれ以上)のレベルの業務量を問うています。)

11. 申請者の署名

本業務経験説明書及び自己アピール書の記載事項に、偽りはありません。

署名(自筆)※署名は自筆以外の方法(例：電子署名、画像の貼り付け)は認めません。

審査でこの様式は、申請者のURA業務の経験が直近5年間の中で合計3年以上あること(判定項目)の確認と、その内容と量が基準(審査実施要項参照)を満たしているか(評価項目1及び2)の判断に主に用いられます。それらが分かるように、**業務の内容と申請者の役割等を具体的に記入してください。特に強調したい成果は自己アピール書(様式2)にも記入してください。なお、URA業務の評価対象には、研究活動のマネジメントは含まれますが、URAの組織である室や部門等の組織マネジメントは含まれません。**よくある質問(Q & A <https://www.crams.or.jp/faq/>)の該当項目を参照してください。

所属長(以上、あるいはそれに準ずる関係者)は対象となる3年間ずっとその地位にいた人である必要はありません。途中で着任した人あるいは途中で離任した人であっても、3年間の事実を認めることができる人であれば、一人で構いません。もし一人で3年間の業務経験を認めることができないという場合は、部署を異動した場合と同様に、複数の方に署名をお願いしてください。

提出時には、緑字の部分は削除してください。

認定 URA の認定申請に係る自己アピール書の書き方と様式 2

1. 自己アピール書は、この書き方の後に付いている様式 2 を用いて、申請者自身が 3 ページ以内で記入してください。

自己アピール書は、審査において、申請者が研究者、研究グループの研究活動の活性化のために、自立的に問題を解決する能力を備えているか(評価項目 3)の判断に主に用いられます。それらが分かるように、自身の業務上の役割や創意工夫等を含めて具体的に記入してください。その際、様式 1 で記載した URA 業務の中から次の 2 つについて項目立てをして説明してください。

- 特にアピールしたい URA 業務（複数可）の経験
- その経験において、申請者の自立的な問題解決能力を証明する自身の役割・貢献

なお、URA 業務の評価対象には、研究活動のマネジメントは含まれますが、URA の組織である室や部門等の組織マネジメントは含まれません。よくある質問（Q & A <https://www.crams.or.jp/faq/>）の該当項目を参照してください。

2. 理解し易くするために、図、表を用いても構いません。
3. 書き方に関する注意
 - 様式の枠は変更しないでください。ただし、文字数が多くなって、縦方向に広がることは構いません。
 - 様式の申請者が記入する部分は、文字サイズ 10.5 ポイントで作成してください。それ以外のサイズは使用しないでください。
 - 様式の申請者が記入する部分では、フォントは游明朝、文字の色は黒にしてください。ただし、強調したいところを太字にしたり、色を変えたり、別のフォントにすることは構いません。
 - **各様式の緑字で書かれた説明や指示は、提出前に削除してください。**提出の際は、不要の部分を削除し、自己アピール書（様式 2）のページだけにしてください。

自己アピール書（様式 2）

（申請者は、3 ページ以内で記入してください。提出時には、緑字の部分は削除してください。）

申請日（西暦） 年 月 日

申請者氏名	
所属機関 部署・職名	

この様式は、申請者が研究者、研究グループの研究活動の活性化のために、自立的に問題を解決する能力を備えているか（評価項目 3）の判断に主に用いられます。それらが分かるように、自身の業務上の役割や創意工夫等を含めて記入してください。具体的には、様式 1 の 8 で記載した URA 業務の中から次の 2 つについて項目を立てて説明してください。

- 特にアピールしたい URA 業務（複数可）の経験
- その経験において、申請者の自立的な問題解決能力を証明する自身の役割・貢献

ここで、**自立的**という語は、スキルカードの中級で示されているレベルを意味します。なお、スキルカードに記載されている業務内容は申請者の業務に一致するとは限りません。スキルカードはそこに記載されている業務についてのレベル感を表すものですので、その場合は自身の業務に照らして理解してください。

なお、URA 業務の評価対象には、研究活動のマネジメントは含まれますが、URA の組織である室や部門等の組織マネジメントは含まれません。よくある質問（Q & A <https://www.crams.or.jp/faq/>）の該当項目を参照してください。

提出時には、緑字の部分は削除してください。